

2010.6.8 「菅内閣は小沢隠しのカンニング（ずるい）内閣だ」

【広田】西田昌司先生の事務所でお世話になっておりますインターン生の広田と申します。今回も先生に質問して参ります。よろしくお願い致します。

6月2日に鳩山総理が辞任され、菅内閣が発足したことにより、下がっていた民主党の支持率が上ってきたという報道がされています。民主党の代表が鳩山氏から菅氏に変わったことによって民主党はどのように変わるのでしょうか。また自民党は民主党をどのように追及していくのか、教えて下さい。

【西田】今、広田さんが言ったように、先週突然、鳩山氏が総理大臣を辞任されて今日、菅内閣が正式に発足するようです。それを受けて民主党の支持率がかなり上昇しています。しかし、その菅新内閣は、何も変わらないと言わざるを得ません。

鳩山氏が総理大臣職を辞した理由は、自らが仰ったように普天間問題の迷走と、鳩山氏と小沢議員の政治とカネの問題の2点に尽きますが、これによって国民が聞く耳を持たなくなったと、とんでもないことを言っています。身から出た錆で政権を放り出すことになったのです。今度の菅内閣で普天間の問題をどのように解決するのかといえば、鳩山氏が決断した方法、つまり、沖縄の辺野古周辺で代替施設を作るとを踏襲すると言っています。しかも、8月までに如何なる場合・候補においても決着は付けると明言し、その日米声明に署名をしています。これで沖縄の人達が納得するはずありません。そもそも、できないものをできると言ってきた責任は、鳩山氏だけのものではなくて、菅氏も副総理として連帯責任を負っていたはずです。しかし、彼はその責任を全く考えていないどころか、その政策を継続するわけですから、何も変わっていません。

しかも、唯一我々も密かに期待していたのが小沢・鳩山両氏の政治とカネの問題で、今度は代表が変わって、党内でしっかり追及していくのかと思いきや、肝心の枝野幹事長は小沢氏からの距離が遠いということで選ばれたにもかかわらず「小沢氏が幹事長を辞めたことによって一定のけじめが付いて、以前のような状況とは根本的に変わったのだ」と仰っています。せめてこの問題を政倫審（政治論理審査会）に挙げよと我々は言い続けてきました。そもそも、予算委員会で出席を我々は要求しているのですが、政倫審といういわゆる秘密会の中で自ら弁明するだけの会においてでさえも出席してもらわなくてもいいと発言しています。さらに、予算委員会には全く応じるつもりは無いようです。表面上は小沢・鳩山両氏の政治とカネの問題にはケリをつけたとされていますが、本質的には何もケリはついていないのです。今までと同じように政治とカネの問題については知らぬ存ぜぬで通し、事実を隠蔽して終わらせることが目に見えているのです。

鳩山内閣のままでは支持率がどん底で参議院の改選議員が不利になるので、小沢氏を幹事長から外し、鳩山氏が総理を辞任することで、責任を取ったことにしているのです。しかし、それは看板のすげ替えに過ぎません。本当に責任を取らなければならないのは民主党全体であり、沖縄問題においても国民を欺いた責任は取っていないのです。

政治とカネの問題も、私は去年から一年間質問し続けてきましたが、民主党の中から誰一人として、一度たりともこの問題についての真相を本人から聞こうとしません。役職を辞めろとは言えるが、真相は聞けない。菅内閣とは一言で言えばカンニング、つまり、ずるい内閣です。このように自分達の都合の悪い事は隠して、選挙に勝てばいいというとんでもない内閣は、潰さなければなりません。

ぜひ国民の皆さま方も、惑わされることのないようお願いいたします。